



東京都市大学 柏門技術士会
会長 安部 毅

技術士に求められる素地

今年（令和6年）6月に開催された柏門技術士会総会において、3期6年間務められた佐藤会長の後任として、第6代会長に選任をいただきました安部と申します。

本会は諸先輩方の多大な尽力によって発足し、これまで21年の歴史と実績があります。改めまして本会の目的である「会員相互の交流、研鑽に併せて本学の教育、研究への協力、支援、発展に寄与し、もって社会に貢献」するよう、これまでの取組を継承し、さらなる発展を目指していきたいと考えております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて今年は、能登半島地震という甚大な自然災害による幕開けとなりました。お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。また現地で復興に就かれている方々に敬意を表するとともに、地域の皆様には一日も早く安心できる生活が送れるよう心より祈念しております。

大災害の度に社会資本の重要性を痛感することになります。普段は特に意識することなくその恩恵を享受している道路、橋梁などの公共インフラ、電気、水道などのライフライン、鉄道、航空などの交通インフラは、生活の快適性にとどまらず、現代社会に暮らす我々にとって必要不可欠なものとなっています。技術士は、自然災害の多い日本において、被災で失う命の数を最小限にするよう不断努力で国土強靱化の取組を進めていく責務があります。

また今年は、いわゆる2024年問題、建設業や運輸業を取り巻く大きな環境変化の年でもありました。働き方改革、本来あるべき労務環境を整え業界の魅力を高め、先々の人手不足に備えた措置で、従来の概念からの転換を余儀なくされています。また近年、DXの日進月歩の進化は目覚ましいものがあります。こうした動向の中、技術士は常に時代の要請を敏感に捉え変化に呼応していくことが求められているのだと思います。

先日、大学技術士会連絡協議会（大技連）の会合で、日本技術士会男女共同参画推進委員会の飯島委員長による、「DE&I」の講演を拝聴いたしました。車のシートベルトの形状や市販薬の量などは男性の体をベースに商品化されていることなど、ハッと気づかされる内容でした。日本のジェンダーギャップ指数が146カ国中125位で、年々低下傾向にあることも大変強い危機感を感じます。技術士がモノを造る過程においても、そういった認識を備えていないと、現代あるいは国際社会では太刀打ちできないのではないかと思います。

この講演を聴く機会がなければ、話のあったジェンダーギャップの意識をずっと持たないままだったかもしれません。技術士には継続研鑽の責務がありますが、自らの専門分野の最新技術や動向を把握するだけでなく、こうした新たな気づきを求める意欲やそれを素直に吸収し楽しむことも、ある意味技術士に求められる素地ではないかと感じています。

東京都市大学は今年1月に野城学長が就任され、大学のこれまでの路線に「都市を舞台にイノベーションを起こす大学」という目標を加えられました。また、本学校友会は今年4月に皆川勝会長が就任され、「全会員の福利と社会及び母校の発展のために寄与する活動を展開」という基本方針を打ち出されました。卒業生の一人として、今後の益々の発展を期待するところです。

柏門技術士会としても、大学や校友会はもちろんのこと、日本技術士会や大学技術士会連絡協議会、各大学技術士会などとの連携を図り、会員の交流および研鑽とともに、学生との接点や世代および業種を超えた交流を増やし、技術士としての成長の場を少しでも作っていきたいと考えています。